

令和5年3月10日

あきる野市議会議長 殿

会 派 名 公明党

代表者氏名 増崎 俊宏

会派の（ 調査研究 研修 ） 報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

記

1 調査研究または 研修実施日	令和5年3月中に4日間にかけて受講
2 調査研究または 研修の場所	資料及びUSBデータで受講
	会派控室及び自宅
3 調査研究事項 または研修名	予算議会直前研修in東京
	・市役所の仕組み
	・予算前に自治体財政のおさらい
	・予算審議の实地研修基礎
	・予算審議の实地研修応用
	地方議員研修会 CK セミナー事務局
	講師：地方議員研究会統括コンサルタント 川本達志氏
4 参加者氏名 (1名)	原田 ひろこ
5 調査研究または 研修の概要及び 感想等	別紙のとおり

【概要】

《市役所の仕組み》

市役所の意思決定の特徴として、法律・条例等、多種・多様の多くの裁量を含む規範があり、その価値観や行政の役割、手法も多様であるが、稟議制と協議制が多用される。既存の制度の修正や具体的事案の解決策検討に機能する。新たな課題や先取りの制度創設等には、議会が提案するなど、補完が必要。住民に最も近い存在である議員が、住民ニーズを迅速且つ的確に把握し議会による調査等も含め、積極的に取り組む必要があるということを前提とし予算編成（事業計画決定）の手順、国の補助事業や自治体の単独事業の決め方進めかた等の基礎を学んだ。直面する課題である人口減少、超高齢化社会に対応すべく、各自治体が地域の実情に応える政策・施策を迅速に行う必要がある。意思決定の変容「広域化と集中化」「多様性、先進性の発揮」「成果・根拠重視」「住民自治の再構築」「議会の役割の変容（議会改革）」が迫られる。

《予算前に自治体財政のおさらい》

自治体財政の基礎、財政用語、中核市の経常収支比率の比較、健全化判断比率（夕張市の財政破綻の例も含む）、簡単な財政診断等を学ぶ。

《予算審議の現地研修 基礎》

事業計画（歳出）を審議するためには、自団体の課題を的確に把握（現状を知り、あるべき姿とのギャップを埋める）、自分なりの解決仮説を持つ、事業の成果目標が的確か確認（事業の成果目標が課題解決や改善に効果的なのか）の視点をもたなくてはならない。そのために、事業計画の体系の確認が必要である。手順として、基本目標→政策（目標達成のための課題提示）→施策（課題解決の仮説）→事務事業（検証を経た解決のための具体的な方策）の確認となる。

予算編成の手順、事務事業を審議する視点、優先順位を定める事務事業の見方（査定時）を学ぶ。審議の準備として、毎年6月に公表される骨太方針、12月に決定される地方財政計画及び地方財政対策、1月発表の国家予算において、自分が

テーマにしている政策の国の動向、その他にコロナ禍の影響や個別の事業など、各自治体の次年度予算に影響を与える事情等をチェックすることが必要である。

《予算審議の現地研修 応用》

予算審議では、特に、新規・拡充事務事業については、掘り下げた審議が必要になる。成果をあげるエビデンスを明確に示せるよう、課題認識と成果目標を執行部と議会が共有する。議論がかみ合うように、また、無駄な質問はせず効率的に審議するための資料が必要。

事務事業はP（予算：現状認識と課題認識に基づき検証を経た解決策が提示されているか）D（執行：予算に示され説明された事業が、タイミングよく効率的に執行されているか）C（評価：目指す成果が達成されているか。評価が適正に行われ、公表されているか）A（改善：評価の結果を踏まえ、改善が検討され、効果的な改善策の策定に反映）でブラッシュアップされる。

他、決算を生かした予算審議、財政比較を用いた予算質疑について、他自治体の事例を通じ学ぶ。

【所感 等】

今回の研修はコロナ禍でもあり、資料・USBデータの送付による研修であったが講義内容が動画編集され、繰り返し学びなおしが可能であり有用であると感じた。

議会という機関は、代表として議決、提案、監査、不信任等の権限を持つが、それは個々人の権限ではない。市民から選ばれた多様な人が、代表して意見を出し合い、意思統合を行うプロセスがある議会の提案及び機関としての意思統合の活動充実を図っていかなければならない。そのためには、市民のもとに足を運び、率直な声や意見に耳を傾ける現場主義を貫き、民意を徹底して汲み取ることを最優先する必要があることを再認識した。受講目的であった予算書の「みかた」については、基礎を学ぶことができた。9月の決算審議の際は、次年度予算とのつながりも考え、受講成果が発揮できるよう取り組みたい。ともあれ、行政的知識を高めることの難解さ、そして重要性を改めて痛感した講義であった。